

石井妙子氏 講演 「原節子の世界」

日時：2016年6月21日（火） 15：00～16：30

場所：桃山学院大学聖アンデレ館3階 図書館ホール

戦前から戦後にかけて活動し、日本映画の黄金時代を体現した女優・原節子。15歳のデビュー作『ためらふ勿れ若人よ(1935)』から最後の出演となった『忠臣蔵花の巻・雪の巻(1962)』まで107本の映画の背景にある「原節子」と「会田昌江(本名)」の人生に迫る。

本著より…「原節子が最も美しかった頃、日本は戦争に明け暮れていた。彼女が本当に女優として認められたのは戦後のことである。終戦を25歳で迎えた彼女は、敗戦に打ちひしがれる日本人を、慰撫し、鼓舞した。清く、正しく、美しい女優。それが原節子なのだ。」

会田昌江として大正9年(1920)に

生まれた彼女は、「原節子」となり、時代を背負って駆け抜け、昭和37年の映画出演を最後に、忽然と姿を消した。それから半世紀もの時が流れた。私(筆者)がこの日、花束を届ける相手は、女優・原節子として人生の一時期を生きながら、その手で原節子を葬り去った会田昌江だった。」(石井妙子『原節子の真実』:5頁)



石井妙子氏

1969(昭和44)年、神奈川県茅ヶ崎市生まれ。白百合女子大学卒、同大学院修士課程修了。約5年の歳月を費やして『おそめ』を執筆。綿密な取材に基づき、「伝説の銀座マダム」の生涯を浮き彫りにした同書は高い評価を受け、新潮ドキュメンタリー賞、講談社ノンフィクション賞、大宅壮一ノンフィクション賞の最終候補作となった。著書に『日本の血脈(文春文庫)』『満映とわたし(岸富美子との共著・文藝春秋)』などがある。(著書奥付より)



桃山学院大学 <http://www.andrew.ac.jp/access/>